

## 中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年1月25日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■新規就農者 サポートチーム会議

新規就農者の経営安定、早期営農定着を図るため、県・市町村・JA等で組織するサポートチームにて支援する体制を整えている。

1月17日、令和4年度に美濃市で就農した認定新規就農者に対して、サポートチームにて、ほ場での生育状況を確認し、現在の管理状況や今後の計画等を聞き取りした。

栽培中のいちごは、定植が遅れたことで、現在収穫盛期となっているが、草勢は維持され、次の花房も順調に育っている様子であった。また、農産物加工所が1月6日に稼働し、規格外品の有効活用の取り組みも始まっている。

農業普及課では、新規就農者の経営安定に向けて、引き続き関係機関と連携しながら支援していく。  
(地域支援係)



【ほ場確認】

#### ■新規就農者 青年等就農計画認定会議

令和5年度に関市で菌床椎茸での就農予定者に対し、農業普及課はこれまで青年等就農計画認定申請書の作成を支援してきた。

1月24日、関市役所会議室で、青年等就農計画の認定会議が行われ、主催の関市と関係機関であるJAめぐみの、岐阜県農業共済組合中濃支所、森林文化アカデミー、中濃農林事務所林業課、農業普及課が出席して、認定の要件を満たす内容であるかを検討した。

会議には、新規就農予定者も出席して自身の就農計画を説明し、関市および関係機関からの質問を受けたが、高い就農意欲があり、就農後のビジョンも明確であった。

農業普及課では、就農に向けた支援を継続していく。  
(地域支援係)

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■夏秋なす 個別面談研修会

本年度の夏秋なす生産を反省し、次期栽培計画に繋げるため、1月17・18日に中濃夏秋茄子生産出荷組合の個別面談研修会が開催され、JAめぐみの担当者、農業普及課が生産者と個別に三者面談を行った。

農業普及課では、JAから提供された今年度の個人出荷実績、栽培・防除日誌等を基に、収穫量、施肥量実績などの研修資料を生産者ごとに作成し、個別に説明した。また、土壌診断データから次作ほ場の土壌改良処方箋をとりまとめ、診断結果の解説や次年度作に向けた土壌改良資材施用量を提案するとともに、病虫害対策を中心に栽培管理について次年度防除暦を示して指導を行った。

生産者からは、土壌診断結果の見方、病虫害防除等についての質問が出され、次年度作への意欲の高さがうかがわれた。今後も引き続き、夏秋なす生産者の所得向上に向けて生産出荷組合を支援していく。  
(地域支援係)



【個別面談】

## ■キウイフルーツ 電動式剪定バサミの実証

J Aめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会では、みどりの食料システム戦略推進交付金を活用し、省力化に役立つ技術として、電動式剪定バサミの実証を進めている。

剪定では、「剪定バサミ+のこぎり」による作業から電動式剪定バサミによる作業への切り替えについて実証を行った。

電動式剪定バサミを用いることで、太い枝を切るために器具を持ち替える必要がなくなり、力を入れなくても枝を切ることができるため、握力の弱い方でも作業ができることを確認した。実証を担当した役員からは、バッテリー内蔵によるハサミの重さが作業に影響することはなく、導入するメリットは高いとの評価を得た。

農業普及課では、様々な種類の電動式剪定バサミの検討を行いつつ、産地での普及を進めていく。  
(地域支援係)



【電動式剪定バサミによる作業】